

神門郡

「神門を負う」と記された氏族「神門臣」が住まい土地

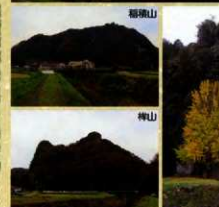
15 **神西湖周辺** (湖廣町一社社町)
かつて、藩の長浜の東に広がっていた巨大な湖。神戸川はもちろん、当時西流していた斐伊川もここに注いでいた。現在、その名残は神西湖に限られているが、各種の調査によりかつての水域が復元されている。右図は2,000年前の神門水滸。風土記の時代もほぼ同規模だったろう。



16 **神門郡家**
古志本郷遺跡 (古郡町)
郡役所の中心である「正庁(せいちょう)」と呼ばれる建物の跡が見つかった。出雲国内でも数少ない邸家の遺跡。



17 **六朝山**
宇比多岐山は江戸時代に付けられた名前。古い時代になく、由来には諸説ある。



朝山町の山々
「オオクニヌシが毎朝女神のもとへ通った」ことにちなむ朝山郷。その小盆地を取り囲む独特な山容は、次のように神に結び付けられた。
宇比多岐(ういたぎ)山※
= 神の宮
・禰山 = 積み上がった稲束
・黒山 = 神が食す稻
・陰山 = 髪飾り
・禰(ほこ)山 = ホコ
・冠(かがふり)山 = かぶり物



18 **大嶽山** (神門町一所郡町)
標高356m。平らな山頂は、風土記に記された最南端の峠の跡とされる。軍事に関する情報を雲南方面へ伝える拠点であった。



19 **石見国**
佐田町一壘田付近
出雲大社の遺産にこの山から切り出されたヒノキやスギが使われたとある。材木は神戸川の流れにのって運れたようだ。

飯石郡
土地神イビツツベが鎮座する地 **飯石**

20 **大須佐田**
小須佐田
佐田町須佐付近
スサノオが御魂(みたま)をしずめ、大小の田を定めた、という湧佐の地。「湧佐の男(お)」に蒙られた美しい風景が山間に広がる。

さらに詳しく知りたい方は…
「出雲国風土記」解説本
◆とにかく色々知りたい!!
【解説 出雲国風土記】
……………(鳥根康古代文化センター 編)
【出雲国風土記註録】
……………(関 和彦 著)
【出雲国風土記参究】
……………(加藤成成 著)
◆原文を読みたい!!
……………(沖森卓也ほか 著)
【出雲国風土記】
……………(肥後千鶴 著)
◆こども向け解説
……………(川島美英子 著)

お問い合わせ
出雲市文化財課 TEL(0853)21-6893 平成29年(2017)3月作成

厳選! 出雲国風土記 探訪マップ



「出雲国風土記」に記された、出雲郡、楯縫郡、神門郡と飯石郡、秋鹿郡の一部が現在の出雲市の範囲にあたります。

現在の出雲市を空から見た写真に「出雲国風土記」の時代の水域や川の流域を重ねたものです。

時をさかのぼること1,300年前の奈良時代。都から、「各郡の風土、地名の由来、言い伝えなどをまとめた書物を編集せよ」との命令が下されました。この命により出雲で編まれた地誌「出雲国風土記」は、全国で唯一、ほぼ完全な形で残された風土記です。
風土記に記された文字から浮かび上がる、奈良時代の出雲の姿。その多くは、今も出雲市内に残されています。「1,300年前のガイドブック」を片手に、いしえの出雲を見つける旅に出かけましょう!

出雲市



1 御宗半島
御宗神社前沖に浮かぶ御宗には、春に桜並木と数千羽のツミネコが繁殖(はんしやく)のため集う。

日御崎・経島(大社町日御崎)
日御崎神社前の沖に浮かぶ御宗には、春に桜並木と数千羽のツミネコが繁殖(はんしやく)のため集う。



2 出雲 北山山系
「国引」神話で最初に引き寄せられた山塊(山塊)支豆支の御境(御境)増(づ)き(み)き。周囲には多くの神社が鎮座する。



3 升巻流と「黄泉の送」
猪目海岸と猪目洞窟(猪目洞)
風土記に記された昔い伝では、「夢に見ると死ぬ」とされる。当時の「あまの世」の世界を感じられる場所だ。



10 出雲郡の海岸地形
出雲郡から橋縫郡の海岸線は、浜や浦、島々が複雑に入り組む。日本海の荒波が生み出した地形はまさに神楽(かみわ)の境。東西を山に挟まれた谷筋(やま)と、土地のつなぎ目そのものだ。



出雲郡・橋縫郡の海岸地形
出雲郡から橋縫郡の海岸線は、浜や浦、島々が複雑に入り組む。日本海の荒波が生み出した地形はまさに神楽(かみわ)の境。東西を山に挟まれた谷筋(やま)と、土地のつなぎ目そのものだ。



11 折越 去豆の折越
国引された「支豆支の御境」と「狭田国(さだのくに)」の境。東西を山に挟まれた谷筋(やま)と、土地のつなぎ目そのものだ。



4 旅伏山山頂
標高456m。出雲御崎山の東端にある。旅伏山の山名は、頂上に榛(は)ぶりがあかれたことに由来する。



5 穴洞湖
穴洞湖から中海にかけて広がる入海は、今より広い水域だった(右図)。多くの生命を育む水辺として紹介される。



6 出雲大川 斐伊川
「古事記」「日本書紀」の出雲神話に登場するヤマタノオロチのモデルとされる。風土記では、豊かな流域の様子が見られる。



12 山陰道
調査中の古代山陰道(杉沢遺跡)



古代山陰道
奈良時代、郡と各地を結ぶ7つの官道(今のハウエイ)が造られた。出雲国を通る官道「山陰道」は、今の京都北部から日本海沿いを進む。風土記には、国内を通る道が詳しく記されている。近年、出雲市内でも道の跡が見つかり、当時の道路事情がわかりつつある。



13 橋縫郡 多々谷町付近
橋縫郡の跡は今も発見。その推定地は、南北にかなび山、西に出雲御崎山をのぞむ、開けた場所だ。



7 出雲郡家
出雲郡家に付属する倉庫、正倉(しょうそう)跡が見つかった。この近くに、まだ見ぬ役所跡が置かれているはずだ。



8 神巻火山
神の柱(かみわ)がさ(ま)す山(山)はいくつあ(あ)るが、穴洞湖を囲む(む)山(山)だけが(が)かな(かな)び(び)山(山)という(いう)名(な)を(を)持(も)つ。標高366mの(の)山(山)は(は)南(みな)西(せい)の(の)か(か)な(かな)び(び)山(山)。



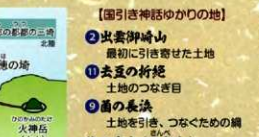
9 島の長浜
長浜海岸(大社町一歩(いち)歩(歩))
出雲平野の西側に広がる良い砂浜で、国引きの橋として登場する。北の奉神山から眺めると、神話の世界が目前に広がる。



14 神巻山 大船山(大久)
経島(つら)の(の)か(か)な(かな)び(び)山(山)(標高327m)。山頂付近の石神に祈れば、必ず雨(あめ)を降(ふ)りてくれる(くれる)とい(い)う。



(神話に描かれた国引きの物語)
風土記の冒険を飾る「国引神話」。巨大な神・ヤマトミツオミツツツが海(うみ)の(の)向(む)こう(こう)から(から)4つ(つ)の(の)余(あ)りに(に)綱(な)を(を)掛(か)け、引(ひ)き寄(よ)せて(て)国(くに)土(と)を(を)広(ひろ)げた(げた)とい(い)う(う)壮(たけな)大な(な)神(かみ)話(わ)だ(だ)。



【国引き神話ゆかりの地】
① 出雲御崎山 最初に引き寄せた土地
② 去豆の折越 土地のつなぎ目
③ 島の長浜 土地を引き、つなぐための橋(はし) 佐比良山(五坂山) 綱を結ぶための杭

出雲国、すものくに
現在の島根県東部地域。9つの郡(意宇、島根、秋鹿、橋本、出雲、神門、飯石、大原、仁多)があり、出雲市は橋本・出雲・神門郡と飯石郡・秋鹿郡の一部となる。

『出雲国風土記』すものくにより
天平5年(733)に完成した出雲国(出雲)の地誌。当時(た)め(め)と(と)め(め)ら(ら)れた(れた)風(かぜ)土(と)記(き)の(の)中(ちゅう)で、唯(ただ)一(いち)張(はり)返(かへ)り(り)全(ぜん)く(く)に(に)残(のこ)る。各(ご)郡(ぐん)の(の)役(やく)人(にん)が(が)入(い)念(ねん)に(に)調(た)べ(べ)た(た)地(ち)名(な)の(の)由(ゆ)来(らい)や(や)地(ち)理(り)の(の)様(よう)子(し)を(を)詳(しょう)しく(く)説(せつ)明(めい)する。

五畿七道(ごきしちどう)
奈良時代、日本列島の国々(くに)は(は)郡(ぐん)と(と)した(した)5(ご)畿(き) (近畿地方の5国)と(と)7(しち)道(どう)に(に)分(わ)け(わ)けら(れ)た(た)。出(い)雲(う)郡(ぐん)が(が)属(ぞく)する(する)山(さん)陰(いん)道(どう)は、今(いま)の(の)京(きょう)都(と)府(ふ)北(きた)部(ぶ)、鳥(とり)取(と)郡(ぐん)、島(しま)根(ね)県(けん)の(の)範(はん)疇(ちゅう)に(に)あ(あ)つ(つ)た(た)8(はち)つ(つ)の(の)国(くに)(内(ない)波(な)・丹(に)後(ご)・佐(さ)賀(が)・伯(はく)耜(し)・出(い)雲(う)・石(い)見(み)・隠(いん)岐(ぎ)からなる。



国府・郡家(こくふ・ぐんか)
奈良時代の通称(つうめい)・役所(やくじょ)。見(み)守(まも)り(り)の(の)よ(よ)し(し)山(さん)頂(てい)で、登(のぼ)る(のぼ)る(のぼ)り(り)上(かみ)へ(へ)上(かみ)り(り)て(て)橋(はし)を(を)伝(た)え(え)た(た)。

峰(たけ)と(と)丘(かみ)
軍(い)用(よう)の(の)通(つう)信(しん)手(て)・聖(せい)地(ち)。見(み)守(まも)り(り)の(の)よ(よ)し(し)山(さん)頂(てい)で、登(のぼ)る(のぼ)る(のぼ)り(り)上(かみ)へ(へ)上(かみ)り(り)て(て)橋(はし)を(を)伝(た)え(え)た(た)。

